

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250
法人名	株式会社ファミリーズ
事業所名	グループホーム パラディーン神宮寺
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3
自己評価作成日	平成24年2月4日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105250&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成24年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の特徴を大事にして、寄り添うケアを提供し笑顔で安心した生活が送れる様に努めています。「共に生活する」という視点で、利用者自身の存在感や役割・その人らしい生活を送って頂ける様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

確実な方針とそれに沿った運営が継続されている。組織作りが堅実でバランスが良い為に、淡々とした中に力強い歩みが見える。それは、職員の定着と育成という形で表れていて、全体的に介護への意識が高いように見受けられた。マニュアルや各種記録用紙の様式にも介護レベルの高さや工夫が随所にあった。例えば、身体拘束をしないケアの一項目としての(オムツを使わないケア)では、排泄チェックを単に記録をするだけに留めるのではなく、△ではなく○を増やすということで改善をしていく、というふうに考えられていた。毎月担当が行う状況チェック表然りである。また、特筆すべきは地域との連携であろう。地域に浸透していくという努力を継続され、密着型としての役割を果たしていている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1度の職員会議で職員全体で話し合う事で、理念や日々のケアを共有している。	特に唱和をしたりはしていないが、設立時に決めた方針に沿って確実にたゆまぬ歩みを続けているとみてとれた。設立当初からのスタッフが多く、同じ体制で同じ思いを持って運営にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会大掃除や祭り・幼稚園との交流をはかっている。	地域との密接なつながりがあり、地域の中でホームの存在が浸透している。地域の各種行事への参加や、逆にホームの催しにも大多数の参加者を得た。昨年、町内に避難勧告が出た時等は、災害の講習会にも参加している。	今後は、「認知症介護の実践者としての知識や経験を、地域へ啓蒙するような取り組みについて進めていきたい」と考えているとのこと。大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に行っていないが相談があれば行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長などの地域の方や利用者家族に参加して頂き意見など日々のケアに活かせる様努力している。	会議は町内会の主な方々や民生委員2名、家族などの参加を得て、2か月に一度確実に開催している。内容もタイムリーなものから、運営に関するものまで多岐に亘っていて、そこで出た意見を生かしていくような仕組みがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と日頃の実情やケアの内容などを伝え、困った事や分からない事はすぐ相談し密な協力関係を築ける様にしている。	市町村の担当者と密に連絡をとってホームの実情等を伝えている。先ごろ、デッキを拡張改修する工事について相談し、協力を得た。お蔭で生活空間が拡大し、災害時の際などにスムーズに安全に避難できるようになるという。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士でもケアについて話し合い、より良いケアが行える様意識確認している。	身体拘束をしないケアということはどういうことか、具体的な介護ケアについて、とてもわかりやすいマニュアルがある。また、せざるを得ない場合の同意書には何点かのチェック項目があり、優れた職員意識の表れだと感じた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で日々のケアを振り返ったり反省しながら虐待防止に努め意識統一している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などは必要時受ける様にしている。成年後見制度については学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の日に来るだけ複数の家族と複数の職員で説明する時間を設け、不安や希望なども聞きとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時及び電話にて密な連絡を取り、利用者・家族の意見を第一に考えて反映している。	ホーム内には明るく話しやすい空気があり、利用者にはのびのびとした自由な雰囲気がある。特に意見箱は設けず、面会や電話などでの機会に意見や要望を収集、反映できている様子である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場職員として働いている為、日常的に職員の意見や提案を聞いている。状況に応じては個別の面談も行い、一人一人の声が聞き取れる様努力している。	管理者、ホーム長、施設長、部長と段階的に組織作りが為されていて、偏らず凝らず一つの方向に向かっていく。皆で話し合い、納得して進めていて「ものが言いやすい」との声聞いた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回のフィードバック面接を行い職員が向上心を持って働ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会議を行い外部研修の情報も共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで交流を深め他施設見学で意見・情報交換する機会が持てた。これを終わりとせず今後も積極的に取り組みたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心に繋がる様思いを傾聴し家族の意見や情報も取り入れ関係を築いたり、入所前に施設見学にきてもらったりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所数日は様子報告の電話をしたり積極的に面会に来てもらう事を勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の想いを大切にし希望に添える支援を相談・提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員共に生活し互いに支え合える家族の様な関係作りを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割まで職員が奪う事の無い様協力の出来る事は声をかけ、共に本人を支えていける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に遊びに来てもらったり行ったりし面会に来やすい環境作りや外出を勧めるなどしている。	利用者は近隣からの方が殆どであり、家族や親せき、友達などが気やすく出入りしている。日常的に馴染みの店などに買い物に出かけたり、散歩に出ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席や過ごす場所など利用者同士の性格・愛称で一緒に過ごせる様考えている。自室に閉じこもり孤立しない様に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族へのフォローや相談をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り入れ、日々の関わりの中で傾聴を心掛け希望・意向の把握に努めている。	入居者は担当制で一人ひとりの把握に努めている。1か月に一度、モニタリングも兼ねて、状況チェック表で表情や意欲、出来事や家族の言葉等11項目に亘り、具体的な言葉で表してチェックしている。それはプランに連動して反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族の入居前面談・他関係機関からの情報提供により情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや能力を見極め、必要時に必要なだけの手伝いを行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月現状表へ変化や日常の出来事を記入して家族と情報共有し、支援方法など職員全員で提供出来る様意見交換しケアプランに繋げている。	先で挙げた状況チェック表での結果を持ち寄り、全体の情報共有をし、介護計画に連動するようにしている。チェック項目に家族の言葉が具体的な言葉で表しているのが、家族の気持ちがわかりとても良いと思う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕2回の申し送りで情報共有する。記録も大事な事は色分けして線を引きひと目で分かる様にしている。ケアの実践と結果も記入し見直し次のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊の送迎や病院の送迎も相談や状況に応じ行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員に参加してもらい地域に馴染める様協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にし、馴染みのあるかかりつけ医の継続や希望があれば紹介も行っている。	入居前からのかかりつけ医を継続している方が多く、毎週、または2週間に一度往診してくれている。他科への受診は家族の協力を得ている。歯科の健診や往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化や気づきを見落とさない様職員内で共有し、異常があればすぐ病院へ連絡し支持を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師とも話をし本人の状況を知らせ早期退院に努めている。見舞いや食事介助も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員会議など職員全員の集まる場で、本人・家族の思いを尊重しこれからのケアをどうしていくべきか考えている。家族とはその都度意志の確認をし後悔の残らない終末期を迎えられる様取り組んでいる。	家族に後悔して欲しくない、という思いが強く、その都度話し合いをしながら、意思を確認しながら進めていきたいと考えている。これまでも自然な形で看取りをした例も複数あり、そういう時こそ皆が自然に一層団結し看取りケアにあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回マニュアルを元に避難訓練をしている。	平成24年3月にスプリンクラーを設置した。また、デッキの改修で災害時の避難がスムーズに安全に出来るようになる。町内会と密接な交流・連携をして災害対策に当たっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の大先輩という気持ちを常に持ち、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	設立時に決めた方針に従って運営を進めている。入居者一人ひとりの尊厳ということについては、組織的に、施設長、ホーム長、管理者が具現的に示している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけ・傾聴を心掛けて自己決定が出来るコミュニケーションに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員で何かをする時間は作らず個々のペースに合わせ自由に過ごしてもらっている。希望があれば買物・カラオケなど外出もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など本人が好みで選んでいる。自己決定の難しい人には、反応を見て決めたり選択を出来る声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食に対するニーズを把握し、一緒に買物へ出掛け商品を見てメニューを決めたり、一緒に調理から後片付けまでしている。	近くのお店に出かけて食材を買ったり、散歩のついでにお店をのぞいたりしている。包丁を持てる方もいるし、食事の支度や片付けが自分の生き甲斐のようになっている方もいる。バランスの良い手作りの食事を心がけていて、楽しく食べられていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のおおよその食事・水分摂取量を把握し、食べれない時はおかゆ・ゼリーに変更するなど臨機応変に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて行っている。歯科受診後には指導に元付いた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の無い人やパットに出ている時でも必ずトイレに座って頂いたり、排泄状況が把握出来るまではこまめなトイレ誘導を行っている。	オムツを使わない排泄のケアを心がけている。排泄チェックの表し方で、トイレだと○、パットだと△にして、○が増えるように尿意を把握し、誘導していこうと、改善に向けたわかりやすい工夫があった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳などの提供・マッサージ・運動など個々に合わせ行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外は入浴日といいつでも入浴出来る様になっている。同性介護を出来るだけ行い、入浴方法も希望を聞き対応している。	介助が2名必要な方もいる。1階の方は希望を聞いて希望に沿う様にしている毎日入っている方もいる。2階の方は入浴日を決めている。柚子や入浴剤を使うなどして入浴が楽しみなものになるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動出来るリズムをつくり、夜はリラクスして布団に入れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを活用し変化など常時確認出来ています。薬は本人に手渡し服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きだった事や物などホームに持参してもらったり職員が教えて貰ったりし、本人が生き生き生活出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅・買物・外食など出来る限り希望に沿った外出が出来る様努力している。家族の協力が必要な時は連絡をし協力してもらっている。	近所への散歩や買い物に出かけている。季節に合わせた行事で、皆で出かけることも多い。外食でおうどんを食べに行ったり、近々梅狩りに出かける予定があった。月の活動も担当制で計画しているので、種々の活動が目白押しで楽しみなものになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買物では、欲しい物を自身のお金(本人・家族の希望で所持の有無決めている)で買って頂き、買い物の楽しみや社会との繋がりが持てる様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への手紙や年賀状・電話など要望がある度に郵便局へ行ったり電話したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や植物で季節感を取り入れている。また温湿度管理にも努めています。	内部は木の質感を生かした作りになっている。各部屋の扉や床もデザイン性に優れていて落ち着く。共用空間は、デッキを改修した事でより明るく空間の広がりを見せている。古い灯籠や水神を祀ったもの等伝承の物が深みを持たせている。季節の鉢花やポイント的なインテリア等の品が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人のプライバシーを確保すると共に、利用者同士居室の行き来が自由な為、気軽に尋ねて行ける様にしている。また食堂以外にもソファや椅子を置き人目を気にせず過ごせる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れた物やベッド・タンス等の配置など、本人の使い易さや馴染みの持てる環境整備を心掛け提供しています。	居室内の床と畳のバランスや質感・色調が各部屋違って絶妙である。その中に馴染みの物を持ち込んで一人ひとりの生活スタイルを作っている。落ち着いた居心地の良い生活空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握しながら安全快適に自力で生活が送れる様、目印を付けたり手摺を置いたり動線を考え環境整備を行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105250
法人名	株式会社ファミリーズ
事業所名	グループホーム パラディーン神宮寺
所在地	岡山県岡山市北区北方1-14-3
自己評価作成日	平成24年2月4日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105250&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社
所在地	岡山県岡山市北区駅元町1-6 岡山フコク生命駅前ビル
訪問調査日	平成24年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の特徴を大事にして、寄り添うケアを提供し笑顔で安心した生活が送れる様に努めています。「共に生活する」という視点で、利用者自身の存在感や役割・その人らしい生活を送って頂ける様にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月に1度の職員会議で職員全体で話し合う事で、理念や日々のケアを共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会大掃除や祭り・幼稚園との交流をはかっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に行っていないが相談があれば行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長などの地域の方や利用者家族に参加して頂き意見など日々のケアに活かせる様努力している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者と日頃の実情やケアの内容などを伝え、困った事や分からない事はすぐ相談し密な協力関係を築ける様にしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士でもケアについて話し合い、より良いケアが行える様意識確認している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で日々のケアを振り返ったり反省しながら虐待防止に努め意識統一している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などは必要時受ける様にしている。成年後見制度については学ぶ機会はない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の日に来るだけ複数の家族と複数の職員で説明する時間を設け、不安や希望なども聞きとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時及び電話にて密な連絡を取り、利用者・家族の意見を第一に考えて反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も現場職員として働いている為、日常的に職員の意見や提案を聞いている。状況に応じては個別の面談も行い、一人一人の声が聞き取れる様努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年数回のフィードバック面接を行い職員が向上心を持って働ける様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月職員会議を行い外部研修の情報も共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで交流を深め他施設見学で意見・情報交換する機会が持てた。これを終わりとせず今後も積極的に取り組みたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の安心に繋がる様子を傾聴し家族の意見や情報も取り入れ関係を築いたり、入所前に施設見学にきてもらったりしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所数日は様子報告の電話をしたり積極的に面会に来てもらう事を勧めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族の想いを大切に希望に添える支援を相談・提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員共に生活し互いに支え合える家族の様な関係作りを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の役割まで職員が奪う事の無い様協力の出来る事は声をかけ、共に本人を支えていける様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人に遊びに来てもらったり行ったりし面会に来やすい環境作りや外出を勧めるなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席や過ごす場所など利用者同士の性格・愛称で一緒に過ごせる様考えている。自室に閉じこもり孤立しない様に支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて家族へのフォローや相談をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当制を取り入れ、日々の関わりの中で傾聴を心掛け希望・意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人と家族の入居前面談・他関係機関からの情報提供により情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムや能力を見極め、必要時に必要なだけの手伝いを行う。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月現状表へ変化や日常の出来事を記入して家族と情報共有し、支援方法など職員全員で提供出来る様意見交換しケアプランに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝夕2回の申し送りで情報共有する。記録も大事な事は色分けして線を引きひと目で分かる様にしている。ケアの実践と結果も記入し見直し次のケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出・外泊の送迎や病院の送迎も相談や状況に応じ行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に民生委員に参加してもらい地域に馴染める様協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切にし、馴染みのあるかかりつけ医の継続や希望があれば紹介も行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の小さな変化や気づきを見落とさない様職員内で共有し、異常があればすぐ病院へ連絡し支持を仰ぎ対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師・看護師とも話をし本人の状況を知らせ早期退院に努めている。見舞いや食事介助も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員会議など職員全員の集まる場で、本人・家族の思いを尊重しこれからのケアをどうしていくべきか考えている。家族とはその都度意志の確認をし後悔の残らない終末期を迎えられる様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回マニュアルを元に避難訓練をしている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は人生の大先輩という気持ちを常に持ち、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけ・傾聴を心掛けて自己決定が出来るコミュニケーションに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員で何かをする時間は作らず個々のペースに合わせ自由に過ごしてもらっている。希望があれば買物・カラオケなど外出もしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など本人が好みで選んでいる。自己決定の難しい人には、反応を見て決めたり選択を出来る声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食に対するニーズを把握し、一緒に買物へ出掛け商品を見てメニューを決めたり、一緒に調理から後片付けまでしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々のおおよその食事・水分摂取量を把握し、食べれない時はおかゆ・ゼリーに変更するなど臨機応変に支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて行っている。歯科受診後には指導に元付いた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の無い人やパットに出ている時でも必ずトイレに座って頂いたり、排泄状況が把握出来るまではこまめなトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト・牛乳などの提供・マッサージ・運動など個々に合わせ行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜以外は入浴日といいつでも入浴出来る様にしている。同性介護を出来るだけ行い、入浴方法も希望を聞き対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動出来るリズムをつくり、夜はリラクセスして布団に入れる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを活用し変化など常時確認出来ています。薬は本人に手渡し服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きだった事や物などホームに持参してもらったり職員が教えて貰ったりし、本人が生き生き生活出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅・買物・外食など出来る限り希望に沿った外出が出来る様努力している。家族の協力が必要な時は連絡をし協力してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時の買物では、欲しい物を自身のお金(本人・家族の希望で所持の有無決めている)で買って頂き、買い物の楽しみや社会との繋がりが持てる様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人への手紙や年賀状・電話など要望がある度に郵便局へ行ったり電話したりしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた掲示物や植物で季節感を取り入れている。また温湿度管理にも努めています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人のプライバシーを確保すると共に、利用者同士居室の行き来が自由な為、気軽に尋ねて行ける様にしている。また食堂以外にもソファや椅子を置き人目を気にせず過ごせる様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長年使い慣れた物やベッド・タンス等の配置など、本人の使い易さや馴染みの持てる環境整備を心掛け提供しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握しながら安全快適に自力で生活が送れる様、目印を付けたり手摺を置いたり動線を考え環境整備を行っている。		